



2018年10月のロータリーレートは1ドル=112円

今年度のテーマ



インスピレーションになるう



2018-19年度RI 会長

バリー・ラシン氏

East Nassauロータリークラブ

パハマ (ニュープロビデンス島)



2018-19年度ガバナー

若林啓介氏 (富山RC)



助田忠弘 S.A.A.

例会便り

第 936 回

10 月 18 日

例会出席 25/43 58.14 %
ホテル日航金沢 3 F

点 鐘

1. ロータリーソング
『 奉仕の理想 』
2. 四つのテスト
3. 武藤清秀会長挨拶



《食 事》

4. ゲスト・ビジターのご紹介
(1) ゲスト [卓話者]

在ネパール日本国大使館職員 / 元米山奨学生 ソバナ・バジュラチャリア様
ディーパック・バジュラチャリア様 (ご主人)
デン・バジュラチャリア様 (ご子息)

(2) ビジター なし

5. 米山功労者へ感謝状贈呈

武藤清秀会長へ米山奨学会 (魏賢任 米山委員) より



6. 幹事報告・委員会報告

〔幹事報告〕東海林也令子副幹事：

来週の例会は意見交換会を予定しており卓話はありません。会場は5Fです。



〔委員会報告〕上田喜之広報委員長：

ホームページのリニューアルについてご報告します。今年度に入ってからリニューアルの打合せを重ねまして、今度の土曜日10/20公開を予定しています。内容については理事の皆さんにもご覧いただきチェックをいただいておりますが、会員の皆様におかれてもチェックをお願いしたいと思います。いくつかお願いがあります。

①「会員ブログ」というコーナーができました。会員の皆さんが自由に書き込めるようになっていますが、例えば政治的なこと、あるいは宗教的なことに関しましては記載をご遠慮いただきたいと思います。もし不適切な内容がありましたら、管理者側で削除させていただくこともあるということをご了解いただければと思います。「会員ブログ」に投稿いただくためのパスワードや詳細については来週事務局よりご案内いたします。

②「会員名簿」コーナーでは会員皆さんの会社等のURLにとぶようにリンク先が貼り付けてあります。もし、会社等のHPが変更されている場合やURLに誤りがある場合は事

務局へお知らせください。

③「会報」については、これまでもPDFファイルをHP上でご覧いただいています。その中で、例えば卓話者の顔写真を掲載していますが、そのことについて卓話者の承諾がとれているかどうかという意見が理事会でありました。そこで今後卓話者を推薦される方は、”HP上に例会での卓話の様子を撮影した写真を掲載してもいいですよ”という承諾を事前にとっていただきたいと思えます。卓話者の中で”困ります”という方がいれば写真を載せないような会報を作らなくてはいけないということになります。

④例会での会員の皆さんの写真についても、出来るだけリアルな表情を撮ろうと思えます。ありのままにHP上で公開される形ですので、写真うつりについて”今の表情が気に入らない”ということもあるかもしれませんが、事前に皆さんの承諾をとることで会報作りに間に合いませんので、会員の皆さんの写真については広報委員の判断で使わせていただくということは何卒ご了承いただければと思えます。

7. ニコニコBOX紹介 ¥16,000- 本年度¥133,000- 残高¥4,186,165-



武藤清秀会長：皆さん今晚は。ナマステ！ソバナさん、ディーパックさん、デンちゃん遠い所からようこそ。皆さんと楽しんでいってください。

石丸幹夫会員：ソバナさんお久しぶりです。お元気そうでうれしいです。

魏賢任会員：皆さまこんばんは。ソバナさんお帰りなさい。卓話を楽しみにしています。少し寒くなりましたが、皆さまお体にも是非ご慈悲を・・・

土田初子会員：ソバナさんお久しぶりです。お会いできるのを楽しみにしていました。

仲島康雲会員：遠路ようこそ。金沢をごゆっくりお楽しみ下さい。

西村邦雄会員：ソバナさんお久しぶり。ご主人・ご子息様と共においでになり、とても嬉しいです。

吉田昭生会員：ソバナ一家来日お待ちしていました。ネパールと日本の友好に盡力してください。お疲れの出ないように日本滞在をご一家で楽しんで下さい。

8. 卓話

ソバナ・バジュラチャリア氏 「新しいネパールについて」

紹介者：武藤会長

1993年 初来日

2000年 金沢大学文学部修士課程入学 哲学科文化人類学専攻

2002年 金沢大学社会環境科学研究科入学 地域社会環境学専攻 博士課程

2008年 金沢大学大学院社会環境科学研究科 博士号取得

現在 在ネパール日本大使館勤務



初めてお会いする方もありますが、懐かしい顔ばかりでこの9年間のギャップを感じません。再会でできてうれしいです。今回お招きいただいたことに感謝申し上げます。また2015年にネパールで大きな地震がありまして、その時もロータリアンの皆さんからすぐに連絡をいただき、その後も直接的・間接的にいろんな支援をしてくださって、心からあらためて感謝申し上げます。

私は2008年に博士号を取得してすぐネパールへ帰国しました。その頃ネパールは政治的な不安定が続いており若い人はネパールを出てる時期で、「なんにもない所になんで帰って来たの？」と言われてました。でも私は何もないからこそ何でもできそうな希望を持って帰りました。恵まれたことに帰りの飛行機に乗っている時から、いろんな所から声がかかって、大学で教えたりネパールに住む日本人にネパール語を教えたりと、そこから始めて段々とコネクションが広がっていつ

の間にか在ネパール日本大使館に呼ばれ2010年からずっと勤めています。最初は政務班という政治経済を中心にみるところでしたが、段々と専門通訳みたいに役割が変わって、今ではほとんど日本から外務大臣など要人が来られる時に日本大使の通訳ということで色々回っています。他には日本からネパールに投資したいと調査に来られる際の通訳など忙しく過ごしています。

今回はお世話になった皆さんにネパールの新情報をお伝えしたいと思います。ネパールは政治が安定してよくなってきています。以前は王国というイメージが強かったと思いますが、2006年に王制が廃止され今はネパール連邦共和国というふうになりました。連邦制に変わった理由は、首都のカトマンズ中心にそこしか発展していなかったことがあります。カトマンズに集中していたものとして、道路・病院・大学、政治的パワーが挙げられます。ネパールを7つの州に分けてそれぞれに州知事・大臣に任せて発展させていくというモデルにしようということで正式に連邦制となりました。ネパールは中国とインドの間であって、大国にとられることを恐れて国土を縦に分けて州にしました。民族もヒンズー教の階級が残ってる国なので、上の階級だけがチャンスを得て出世していく現状から、下の階級の人達も上げていかななくてはいけないということで、それぞれの民族にもいろんな権利を与えようということで、“クォーターシステム”といいますが、例えば議員の何%は女性であるべき、或いは下の民族にも席を与えるべき、という考え方です。今まで差別を受けてきた民族も自立できるまでは“クォーターシステム”に入れて、ある程度バランスがとれたら“クォーターシステム”を廃止して競争していけるようにしようと考えているようです。実際ネパールでは3つの層の行政に変わり、中央政府・州政府・地方政府に分かれてものすごく形が変わりました。これから良くなっていくだろうと想像します。国のシステムや政治は変わりましたが、実際問題として産業や経済は全く変わっていません。水資源が豊富な国なので hidro power の発展や観光業と農業だけで大きな産業もなく、新しい連邦政府というモデルになるとものすごくお金がかかります。7つの州でたくさんの人を雇わなくてはならず、それを全て国民の税金で賄おうということです。延々と続くものではないと政治家は言うけれど、産業がないことはとても大きな問題だと思います。

ネパールの人口は3千万人を超えて増えていますが、若い人はネパールから離れて海外へ出稼ぎに行きます。ネパールのGDPの31%は海外へ出稼ぎにいった人達からの送金です。カトマンズでは高級デパートやマンションも増えて日本と変わらない生活をしているお金持ちが増えていますが、それは海外で稼いだお金であって、自分の国の産業があり、それで働いて稼いでいるわけではないです。貧富の差もギャップがひろくなっています。隣国の中国とインドは経済大国になってきているので、政治家は「真ん中に冷たいグラスがあっても両側に熱いグラスがあれば自然に冷たいグラスも温かくなる」と言いますので、ネパールの経済も潤ってくるという期待もありますが、小さな魚が大きな魚に食べられてネパールの人が自立をしなくなるという有識者もいて、ネパールで物を作ったり産業を作ったりしないとだめになると心配する人もいます。

識字率が高くなり女性の教育も良くなってきて、地震の後に作られた憲法では女性の権利も多く与えられて現在の大統領、少し前までは議長、裁判長も女性でしたし女性が表に出てくるように憲法の上ではなっていますが、社会的にはまだ男尊女卑という感じです。教育面では親が意識的に男の子・女の子の区別をしないで学校へ行かせるべきと考えて子供に投資するようになってきました。節約して子供を学校へ行かせるべきとの意識が芽生えて、それはいい変化だと思います。インターネットや携帯電話も普及して、ソーシャルメディアも活発ですし表現の自由もそうです。徐々に悪い影響もでてきていると思いますが、これまで不安定だったネパールが安定してきたというところがいい所で、海外には援助ではなくネパールに投資してほしいと呼び掛けています。日本の企業もたくさん入ってきて、今後も色々予定があります。そういう面では多少日本語のできる学生達もネパールに戻ったら就職できるのではないかとポジティブな方向もあります。

地震の復興に関しては、日本ほど制度がしっかりしていないので避難対策や復興も進んでいなくて、いつ倒れるかわからない建物も多くあります。80年ぶりの地震だったということで、地震というのはこれだなどいうのをわかって少しは考えるようになりました。余震もたまにあります。次に大きな地震がきたらまた同じことになるかもしれません。日常生活の中では、1日に18時間停電があった電気が、今は停電がゼロになりました。それによって今年の経済が8%改善しました。けれども水は変わらず、パイプがひかれてなくて、特にカトマンズは世界遺産が沢山あり古い街づくりがされていて、地中

にパイプをひくことがとても難しいようです。自宅近くのタンクまで水を運んでそこから家までパイプをひいてという家庭がほとんどです。水が不足しているのではなく、飲める水を供給できないというのが大きな問題です。地震の時はそれが一番大変でした。いま、日本とADPの協力でメラムチ川からカトマンズ盆地に水を供給するシステムがありますが、その水をどこに貯めるか、どうやって自分達が飲むようにするかという課題があります。

ネパールは安定しているところもあるし、日本に比べまだまだ不便なところもあるということです。そんな中で日々日本語を使い日本大使館で働いていますが、通訳以外は英語なので日本語との切り替えに苦労しています。家に帰るとネパール語とネワール語で子供を育てています。

以上、皆さんにネパールをupdateするという話で話しました。



9. 質疑応答

10. 謝辞・謝礼とホームカミング補助費贈呈

点 鐘

パストガバナーからの手紙

365回2018.10.25

炭谷 亮一



核融合のベンチャー

ベンチャー企業はIT関連業種には多々存在するが、近年は米国のベンチャー企業の中には火星への移住計画をも視野に入れ活動しているところも出て来ている。国家的なプロジェクトでなければとてもとても勝算はないと考えられている「核融合発電」にも挑戦するベンチャー企業も出現して来ている。恐れを知らない物理学者達が億万長者などからの支援を受けて核融合発電をより早く、より低コストで実現する方法に果敢に挑んでいる。

現在、巨大な核融合炉（数兆円の費用）は核融合科学の謎をいくつか解明してきたものの、今世紀半ばまでに電力を送電網に供給出来る見込みはない。

複数の核融合ベンチャー企業の多くは、複雑な物理現象を詳細に解明出来なくても商用核融合炉を建造できると主張している。核融合発電の燃料は海水や一般的な鉱物に由来し、ほぼ無尽蔵で炭素を含まない。この為温室効果ガスをほとんど生じない。また放射線被爆のリスクや核兵器転用の恐れも事実上なく、都市の電力を24時間365日賄えるだろう。新参の開拓者がやらなければならないことは、人類がこれまで取り組んだ中で最も難しい物理等と工学の問題のいくつかを解決することだけだと。そして最も大変な問題は「核融合を起こしている高温プラズマを制御するのは、ろうそくの火に触れることなく絞ろうとするようなものだ」という点にある。核融合は実際起こっているようで、それは20マイクロ秒でプラズマはすぐ不安定化してしまう。せめてプラズマの持続時間はその50倍が目的とされている。いずれベンチャー企業の核融合炉が自己点火を達成するにしても実験炉を電力を生み出し利益を上げる発電プラントに成長するまでには更に長く困難な技術仕事が立ちはだかってくる。

2040年には世界中で電力消費が現在の70%増加すると言われており、世界の電力供給の一翼を核融合が担うには、他のクリーンエネルギーとコスト面で競わなくてはならなくなる。国際プロジェクトの国際熱核融合実験炉（ITER、日本も参加、資金も人材も）も米国の国立点火施設（NIF）の期待はずれの進捗状況を考慮すれば、ベンチャー企業の競争は米国の投資家の厚志に依存している。

プリンストン大学のブラガー教授は、米国政府がNIFやITER以外の代替ルートへの予算を増額すれば、さらに野心的な新興ベンチャー企業が新たに参入の可能性がある。革新的なコンセプトのいずれかが成功すれば、核融合エネルギーを数10億ドルで20年以内に開発できると予測している。

「そうなるかもしれない、そうでないかもしれない」「未知の物理現象が命取りとなる可能性は大いにある」とあるベンチャー企業の研究者は述べている。

核融合発電がもし出来た時には、気まぐれな風や雲に影響される太陽光と違う「革新的な永遠のエネルギー」と呼ばれる賞賛をされることは間違いないだろう。核兵器への転用もなく、メルトダウンや放射性物理の汚染も心配のない優れたものである。他のクリーンエネルギーと比べても高コストにはならないだろう。我々人類の明るい未来と増々の繁栄は「核融合発電」にかかっているといても過言ではない。

クラブ例会予定

- 10/25 意見交換会（卓話なし）
- 10/27～28 地区大会／富山市
- 11/1 振替休会
- 11/8 高山健太郎氏（株）エフカ
ディレクター / 3F「ルミエール」
- 11/15 オープンロータリー例会
／3F「ルミエール」
- 11/22 蒲田ちか氏（株）ロータス
コンセプト社長／5F「オーキッド」
- 11/29 親睦会（会場変更例会）
／ラ・ベッTRA・ダ・オチアイ カザワ



実りの秋

2018～19理事役員名

役員（8名）

会長 武藤清秀 会長エクト 大路孝之 副会長 江守道子 幹事 井上正雄
副幹事 東海林也令子 会計 西村邦雄 S. A. A. 助田忠弘 直前会長 上杉輝子

理事（14名）

常任理事：石丸幹夫 吉田昭生

理事会オブザーバー・アドバイザー：パストガバナー 炭谷亮一 地区パスト幹事 岩倉舟伊智

委員会	クラブ管理 運営委員会	会員組織 委員会	広報委員会	奉仕プロジェクト委員会			
委員長	布施美枝子	表 靖子	上田喜之	野村礼子			
副委員長	浦田 哲郎	宮永満祐美	矢来正和	魏 賢任			
委員	①親睦 浦田哲郎 後出博敏	①会員増強 東海林也令子 井口千夏 上杉輝子	①広報 高田重里 辰巳クミ	①職業奉仕 谷伊津子 大沼俊昭 相良光貞 道端勝太	②社会奉仕 土田初子 北村信一 吉田昭生	③国際奉仕 R財団その他 岩倉舟伊智 炭谷亮一 太平政樹	④青少年奉仕 国際青少年交換 江守道子 金 沂秀
	②例会 例会 仲島康雲 柘屋喜三以満 永原源八郎	②オリエンテーション 宮永満祐美 野城 勲	②ロータリー情報 水野陽子 竹田敬一郎			米山奨学会 藤間勲策 魏 賢任	
	SAA 助田忠弘 衣川昭浩		③会報 矢来正和 石丸幹夫 柿木健雄				
	コミコ 木下真知子 小浦勇一 柴田未来						

例会場 ホテル日航金沢5F〒920-0853金沢市本町2-15-1 T076-234-11111 例会日時 木曜日19：00

事務室 ライブ1ビル2F〒920-0852金沢市此花町3-2 T076-262-2211 F076-262-2241

E-mail khrc@quartz.ocn.ne.jp ホームページURL http://100rc.jp/

事務局執務時間 月火水金10：00～15：00 休憩時間12：00～13：00 休日（土日祝日）